

	課題分析	授業改善策
1年	- 数の分解で、パターンが変わると誤答する児童がいる。（練習問題） - ひき算では、計算問題ではできるが、文章問題ができない児童が多数いる。（ワークテスト）	- 繰り返し様々な問題を練習する。 - 文章問題では、<u>ブロックを操作しながら考えたり、文章を一緒に確認しながら読んだり、文章の大切なところに線を引いたりして、何を求められているのかを理解させる。</u>
2年	- 文章題では、文章から場面を正しく立式に結びつける力に課題がある。（ベーシック） 「数はいくつ」では、10のまとまりや構造的な数の捉え方が不十分である。（ベーシック） 「時刻と時間」では、短針と長針の見方が混同している。特に、短針が次の数字の近くを指している際の読み間違いが多い。（ベーシック・ワークテスト）	- 文章問題に線を引くなど、読解の方法を具体的に指導する。<u>問われていることを具体的にイメージできるように言葉と図で説明する活動を充実させる。</u> - 数の構成について、<u>言葉と図で対応させ、数の構造的な理解を定着させる。</u> - 短針で何時、長針で何分という、段階的な読み方の手順を提示、定着させる。<u>日頃から、生活場面と結び付けた指導を行っていく。</u> - プリントやドリルパークを活用して、習熟を図っていく。
3年	- 場面図や単位換算の理解、表に正確に記録することに課題がある。また、ひき算の筆算が正確にできない児童が2割程度いる。（ベーシック） - 文章問題の読み取りや立式に課題がある。（ワークテスト） - 時刻と時間は、定着度に差が見られるので、定着が不十分な児童への対応が必要である。（ワークテスト）	- 東京ベーシック・ドリルの復習や普段の学習を通し、知識の定着を図る。 - 授業でプリントや教科書巻末の補充問題を活用したり、家庭学習で練習問題に取り組ませたりすることで、計算力の向上を図る。 - 時刻と時間については、身近な事柄でイメージしやすい場を設定し、日常生活の中で時刻と時間に関心をもてるような問い掛けをするようにする。
4年	- 図形の単元では、各駅コースや準急コースを希望する児童が多い。図形の単元を苦手と感じている児童が多いと考えられる。（レディネス） - 場面図を表す際に、正答できない児童が多数いる。（ベーシック） - 作図では、問題文から正しくイメージできないため正答できない児童が多数いる。（ベーシック）	- 図形の単元は、児童の実態に合わせ、準急コースのメンバーを編成し、学び合いが生まれる環境を整える。また、各コースの展開については、児童の状況に応じて柔軟に決定する。 <u>多様な表現を認めつつ、表さなければいけないことを明確にし、繰り返し図に表す活動を入れる。</u> - 作図に繰り返し取り組みせ、分度器や三角定規、コンパスの使い方に慣れさせる。量感をつかめるよう、指導を行う。
5年	- 小数の四則計算が苦手な児童がいる。特に割り算に関しては、正確にできていない児童が多数いる。（ベーシック） - 図形の面積や体積を求めることができない児童がいる。（ベーシック）	- タブレットのドリルパーク等を活用しながら小数の四則計算を繰り返し取り組みせ、計算方法を定着させる。 - 面積や体積の求積公式を確実に使いこなせるように、<u>図形の中の必要な情報だけを選択し、活用できるように繰り返し問題に取り組ませる。</u>
6年	- 単位量当たりの大きさを求め、混み具合等を判断する問題を苦手とする児童が多数いる。（全国学力調査） - 小数のわり算を苦手とする児童が約半数程度いる。小数や分数での計算といった既習事項が定着していないことが想定される。（ベーシック）	- 割合や比、データ等を扱う学習において、元とする数量を確かめたり、数量を数直線に表したりして既習事項を振り返りながら学習を進める。<u>他教科や特別活動等でデータを扱う際にもそれらを意識させ、学習内容を応用することで定着を図る。</u> - 習熟度別の学習において、実態に応じて小数や分数の計算の手順などを振り返りながら指導を行う。また、ドリルパークやプリント等に取り組むことで定着を図る。